

仙北市市制10周年記念事業

角館図書館後援会50周年記念事業

# 高井有一と 文化講演会 展



高井有一氏と※富木友治氏  
百穂頭彰碑の前で  
※富木友治：農村モデル町立角館図書館初代館長

この講演会には五十年という  
歴史がある



第7回文化講演会の様子  
高井有一氏が最初に紹介した講師が有馬頼義氏である

会期 2015年 4月11日[土] ~ 6月14日[日]

[開館時間] 午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)  
月曜休館・ただし5月4日は開館  
[観覧料] 高校生以上大人300円・小中学生150円・団体割引あり

会場 新潮社記念文学館

〒014-0311 秋田県仙北市角館町田町上丁23 電話0187-43-3333

主催：仙北市教育委員会 後援：角館図書館後援会

## 「高井有一と文化講演会」展

仙北市学習資料館前身の農村モデル町立角館図書館の活動をバックアップしてきた角館図書館後援会が、昨年 50 年の節目を迎えました。その角館図書館後援会が主催する文化講演会は、7 年目の昭和 44 年に、芥川賞作家、日本芸術院会員で、祖父・田口掬汀が角館町出身の高井有一氏（現新潮社記念文学館名誉館長）が有馬頼義氏を講師として紹介して以来、毎年、高井氏に講師の紹介をいただいています。

この度の展示では、高井氏の作品・原稿等とともに初代農村モデル町立角館図書館長富木友治氏、初代角館図書館後援会長熊谷幹一氏との写真等を通し、また来訪した講師の方々の色紙や講演の様子をご紹介します、後援会のご支援と高井氏のご尽力に感謝の意を表し、50 年の歩みを振り返り展覧いたします。

### 文化講演会に招いた講師

NO	年月	講師	NO	年月	講師	NO	年月	講師
1	S39. 8	池田弥三郎（元慶応大教授）	17	S52.11	長部日出雄（作家）	37	H9.10	秋山 駿（文芸評論家）
2	S40. 7	笹原金次郎（元中央公論編集長）	18	S53.10	大原富枝（作家）	38	H10.10	竹西寛子（評論家・作家）
3	S40. 8	佐藤 明（元東北大学教授）	19	S54.10	三好京三（作家）	39	H11.10	佐木隆三（作家）
		野口 明（元お茶の水大学長）	20	S55.10	黒井千次（作家）	40	H12.10	安西篤子（作家）
4	S41. 4	藤原弘達（元明大教授）	21	S56.10	早乙女 貢（作家）	41	H13.10	出久根達郎（作家）
5	S42. 2	深田久弥（作家）	22	S57.10	色川武大（作家）	42	H14.10	北原亜以子（作家）
		高井有一（作家）	23	S58.10	田久保英夫（作家）	43	H15.10	秋山 駿（文芸評論家）
6	S43.11	石原慎太郎（作家）他 2 名	24	S59.10	三木 卓（作家）	44	H16.10	鷹羽狩行（俳人）
7	S44.11	有馬頼義（作家）	25	S60.10	永井路子（作家）	45	H17.10	高井有一（作家）
8	S45. 6	柴田錬三郎（作家）	26	S61.10	立松和平（作家）	46	H18.10	玄侑宗久（作家）
		梶山季之（作家）	27	S62.10	伊藤桂一（作家）	47	H19.10	立松和平（作家）
		藤島泰輔（作家）	28	S63.10	岡松和夫（作家）	48	H20.10	大村彦次郎（文芸評論家）
9	S45.11	佐藤愛子（作家）	29	H元.10	加賀乙彦（作家）	49	H21.11	佐伯一麦（作家）
10	S46. 8	高橋暁正（医学博士）	30	H2.10	津村節子（作家）	50	H22.10	石原千秋（早稲田大学教育学部教授）
11	S46.11	水上 勉（作家）	31	H3.10	中野孝次（作家）	51	H23.11	加賀乙彦（作家）
12	S47.11	三浦哲郎（作家）	32	H4.10	三木 卓（作家）	52	H24.10	佐藤洋二郎 （作家・日本大学芸術学部教授）
13	S48.11	吉村 昭（作家）	33	H5.10	黒井千次（作家）			
14	S49.11	後藤明生（作家）	34	H6.10	吉村 昭（作家）	53	H25.10	中島京子（作家）
15	S50.10	加賀乙彦（作家）	35	H7.10	李 恢成（作家）	54	H26.11	森まゆみ（編集者・作家）
16	S51.10	田宮虎彦（作家）	36	H8.10	佐江衆一（作家）			

### 高井有一

小説家、新潮社記念文学館名誉館長 1932（昭和7）年4月27日～

東京に生まれる。本名田口哲郎。田口掬汀の孫に当たる。早稲田大学文学部卒業後、共同通信社に入社。記者として勤務する傍ら小説を書き、上原正秋、加賀乙彦らとともに同人雑誌「犀」を創刊した。1966（昭和41）年、戦時中角館に疎開し母親の自死に遭った体験にもとづいた小説「北の河」で第54回芥川賞を受賞、祖父掬汀と佐藤義亮、平福百穂をモデルに、明治青年の夢の行方を追った「夢の碑」、昭和初年の秋田の生活綴方運動を主題にした「真実の学校」では、いずれも東北の風土と人間に眼を向けている。そのほか老年にさしかかった男の日常を見据えた「夜の蟻」、映画界の盛衰を描いた「高らかな挽歌」等の作品がある。日本芸術院会員。

（案内図）

